

一般質問通告書

令和 8 年 8 月 21 日

弥富市議会議長 殿

弥富市議会議員 鈴木 りつか

下記のとおり質問したいので通告します。

記

書画カメラ	☐ 使用する ☒ 使用しない（どちらかにレ点を付ける） ※通告書提出後は、議長に許可を得ること（口頭可）。
-------	---

件 名	1 現場の声を聞き、中学生の自転車マナーの徹底を
	～ 自転車に関する道路交通法改正後の現状把握は～ ① 自転車に関する道路交通法改正後、本市では自転車利用者に対し、交通ルールや安全利用についてどのような周知・啓発を行ってきたか。 ② 市内における自転車が関係する交通事故の発生状況、違反・危険行為の傾向、年代別の課題などを把握しているか。 ③ 法改正後も、ながらスマホ、並進、一時停止の不履行、右側通行（逆走）、無灯火、歩行者への配慮不足など、危険な自転車利用が見受けられる。高齢者を含む幅広い世代に対し、自転車は「車両」であることや、車道の左側通行をはじめとする基本的な交通ルールを、より分かりやすく周知・啓発していく考えは。 ～中学生の自転車登下校の指導は～ ④ 自転車に関する法改正以降、中学生への自転車交通ルールの周知・指導について、各中学校ではどのような取組を行ってきたか。 ⑤ 法改正後、生徒の自転車の乗り方や交通ルールの遵守状況に変化や改善は見られたか。

⑥ 自転車の歩道通行には年齢や道路状況等による例外があり、また、中学生は小学生までの交通ルールから、大人と同様の交通ルールを身につけていく重要な時期にある。こうした自転車交通ルールを学校が正確に理解した上で、生徒に継続的に指導する体制は整えられているか。

⑦ 各学校において、実際の登下校時間帯における通学状況や危険箇所を確認する取組は行われているか。

⑧ 中学生の自転車通学路と、徒歩で通学する小学生の通学路が交差する箇所や、見通しの悪い交差点などについて、地域から危険を指摘する声が寄せられているが、こうした箇所の現場確認や検証を行い、必要な安全対策や交通安全指導につなげる考えは。

⑨ 蟹江警察署等と連携し、実際の通学時に見られる危険な乗り方や地域の危険箇所を題材とした交通安全教室、自転車安全講習等を行うなど、中学生が自らの問題として交通ルールを学べる実践的な交通安全教育を充実させる考えは。

～現場の声を生かした登下校の安全対策について～

⑩ スクールガードや近隣住民など、日頃から児童・生徒の登下校を見守る地域の方々から、自転車の危険な乗り方や通学路の危険箇所、改善点等について意見を聞き取る取組は行われているか。

⑪ 地域の方々から通学路の危険箇所や改善を求める声が寄せられた際、学校、教育委員会、警察、市の関係部署等で情報を共有し、現場確認や具体的な対策につなげる仕組みは整えられているか。

⑫ 事故が発生してから対応するのではなく、実際に登下校の現場に立つ方々の声を継続的に把握し、学校、地域、警察、行政が連携して事故を未然に防ぐ交通安全対策を進めるべきと考えるが、今後どのように取り組んでいく考えか。

～子どもたちを支える地域とのつながりについて～

⑬ スクールガードの方をはじめとして、日頃から子どもたちの安全や成長を支えている地域の方々の活動や思いを、児童・生徒が知り、直接交流したり、感謝を伝えたりする機会は現在設けられているか。

⑭ コロナ禍以降、子どもたちと地域の方々が直接触れ合う機会が減っているとの声もある。見守り活動に限らず、日頃から子どもたちを支えていただいている地域の方々と児童・生徒が交流し、多世代がつながる機会を改めて充実させ、地域全体で子どもたちを見守り育てる環境づくりを進めていく考えは。

	～現場の声を生かし、事故を未然に防ぐために～ ⑮自転車に関する道路交通法改正を一つの契機として、現場の声を生かしながら、市民一人ひとりの交通安全意識を高め、自転車事故から市民を守るための取組を進めていくことについて、市長の考えを伺う。
答 弁 者	担当部課長、市長